

脳神経外科領域における漢方治療の可能性

医療法人伊豆七海会 熱海所記念病院 脳神経外科 部長 阿南 英典 先生



2007年 長崎大学 医学部 卒業
2009年 東京女子医科大学 脳神経外科 入局
2014年 東京女子医科大学 脳神経外科 助教
2015年 熱海所記念病院 脳神経外科 部長

熱海所記念病院は、開設当初より静岡県熱海市において急性期医療を担う数少ない病院として地域医療に貢献している。同院の脳神経外科は最新鋭の治療機器をいち早く導入し、先進的な治療に取り組んでいる。脳神経外科部長の阿南英典先生は最先端の治療を行いながら、一方で日常診療に漢方を積極的に取り入れることで、高い治療効果をあげておられる。そこで、同科における漢方治療の現状と脳神経外科領域における漢方治療の可能性を阿南先生にお伺いした。

超高齢社会の側面を持つ熱海で地域医療に貢献する当院

戸田中央医科グループ(Toda Medical Group; TMG)の施設として1984年2月に開設した当院は、急性期治療から回復期リハビリテーションまでを一貫して担う病院として長年、地域の医療に貢献しています。さらに、慢性期医療を主目的とした「熱海 海の見える病院」が2015年12月に開設されたことで、地域内で治療が完結できる体制が整いました。

この背景には、熱海市の高い高齢化率があります。熱海市は全国有数の温泉地として華やかな街という印象がありますが、高齢化率は全国平均(平成27年; 26.7%)を大きく上回る44.7%であり、当院を受診される患者さんも多くが高齢者です。

ガンマナイフを導入し最先端の医療を提供

当科は、放射線治療に早くから積極的に取り組んでいる東京女子医科大学脳神経外科との関係が深く、1990年にわが国で初めて頭頸部放射線治療機器の“ガンマナイフ”を導入された高倉公朋先生(元、東京女子医科大学学長)が、当院の名誉院長でもいらっしゃいます。ガンマナイフ

は全国で54施設しか導入されていませんが、当院では最新モデルの“パーフェクション”を全国で3番目に導入し、転移性脳腫瘍、髄膜腫、脳動脈奇形などの脳・頭頸部疾患の治療に応用しています。これらの治療実績が評価され、最近では遠方からも多くの患者さんが受診されています。

また、熱海市を含めた「熱海伊東医療圏」に脳神経外科医が非常に少ないため、かなり広汎な地域からドクターヘリも活用しながら患者さんを受け入れています。

日常診療に幅広く漢方薬を活用している

当科は最新鋭の先端技術を駆使しながら高い治療効果をあげていますが、一方で漢方治療も積極的に行っています。使用頻度の高い処方としては五苓散、柴苓湯があげられます。たとえば、慢性硬膜下血腫は比較的高頻度に扱う疾患の一つですが、初期症例や術後の管理において五苓散が有効な症例が多くあります。また脳梗塞後や転移性脳腫瘍に伴う脳浮腫には柴苓湯が有効であり、実際に処方する機会は多くあります。

全身管理における漢方薬の有効性を実感することができます。その一つになかなか離床が進まない、あるいはほぼ寝たきりの状態の患者さんの排便コントロールがあげられますが、そのような患者さんには大建中湯を使用して

います。また、脳卒中や脳血管障害に伴いせん妄を呈する患者さんが多くいらっしゃいますが、私は抑肝散加陳皮半夏をせん妄の基本処方と位置付けています。その他、大学病院の勤務時に臨床研究を行った治打撲一方を術後の浮腫に用いています。

漢方薬には多くのメリットがありますが、特に副作用が少ないことは高齢患者さんにとって非常に重要です。とはいえ、低カリウム血症などの全身的な副作用の発現には注意する必要がありますので、定期的な血液検査が不可欠であることは言うまでもありません。

抑肝散加陳皮半夏はせん妄治療の基本処方

私が漢方に興味を持つようになったきっかけは、大学医局の先輩医師が慢性硬膜下血腫の患者さんに五苓散を処方されていたことです。当時は漢方の知識がまったくなかっただけに、「これが効くのか？」と漢方薬に興味を持つようになりました。さっそく論文などの資料で五苓散について調べてみると有効性に関するエビデンスも数多くあり、私も実際に処方してみたところ効果を実感し、現在では五苓散を慢性硬膜下血腫の術後の基本処方と位置付けています。

せん妄の治療には抑肝散加陳皮半夏を基本処方として積極的に処方しています。たとえば、軽症例に対してリスペリドンを使用すると、効きすぎること翌日のリハビリにも支障をきたすことがあります。しかし、抑肝散加陳皮半夏は有効でありながら効きすぎることとはありません。かなりの重症例の場合は抑肝散加陳皮半夏のみで症状をコントロールすることは難しいので、リスペリドンを

表 熱海所記念病院脳神経外科で使用されている主な漢方処方

疾患	漢方処方	備考
慢性硬膜下血腫	五苓散	
脳梗塞後や脳腫瘍に伴う脳浮腫	柴苓湯	
せん妄	抑肝散加陳皮半夏	初期症例や術後管理。重症例はリスペリドン等との併用。
排便管理	大建中湯	
術後浮腫	治打撲一方	



使用しながら抑肝散加陳皮半夏を併用することもあります。

現在使用しているクラシエ抑肝散加陳皮半夏エキス細粒(KB-83)は1日2回服用ですから、介護者の負担も軽減されますし、飲み忘れも比較的少ない印象があります。

アパシーの治療に応用できる漢方薬は？

私は日常診療において、西洋医学的な治療のみでは十分な効果が得られない場合に、積極的に漢方治療を取り入れたいと考えています。

その一つが高齢者のアパシー(apathy)です。アパシーがあると日々のリハビリにも支障を来すこともしばしばで、何とか治療したい症状なのですが、現在は他に適当な薬剤がないためにニセルゴリンやアマンタジン塩酸塩を使用しているにとどまっています。

このような症状に対して補剤の可能性を考えています。アパシーに対する有効性が確認されている漢方処方はありませんが、補剤の代表処方である人參養榮湯のアルツハイマー病患者さんを対象とした臨床試験で、人參養榮湯は認知機能の改善に加えてBPSDの指標であるNPI(Neuropsychiatric Inventory)の項目の一つである「うつ」を改善したとの報告がありました¹⁾。この結果から、アパシーにも人參養榮湯の有用性が期待できるのではないかと考えています。

脳神経外科領域における漢方治療の可能性は非常に大きいと思います。私はその可能性を探りながら、さらに今後は自身の臨床経験を踏まえて情報を発信できるよう、引き続き研鑽を積み重ねたいと思っています。

【参考文献】

1) 工藤千秋 ほか: アルツハイマー病における漢方薬 人參養榮湯の作用機序—「Aβオリゴマー仮説」から「ミエリン仮説」へ—。新薬と臨床 64: 1072-1083, 2015